

そつ たく 卒 収

令和7年3月1日刊行 №24
編集・発行 大島町教育委員会
教育文化課事務局
TEL04992-2-1453
題字「井島 吉春」

3月号

豊 穫

教育長 谷 口 淨

一般的に「豊穫」とは、穀物が実り、豊かであることを言います。大島では水田がないので米作りをしている農家はないが、四季折々の作物が育ち食卓に上げられます。

昨年の11月のこと、第三中学校の文化祭で、体育館に生徒が育てた「大根」が他の美術作品等と同様に展示されていました。おおっ！見事な「大根！」。誰が見ても旨そうに見えるその大根は、栽培用の袋の中で育っていました。私の隣で見ていた90歳を超えたおばあちゃんは「畑でなくとも、こうして良く育つもんだけね」と、大根と私の顔を見ながら嬉しそうに言った。それは、この大根が育つまでひとり一人の生徒が面倒を見てきたこと、大根もそれに応えようと大きくなったこと。えらいえらいと大根と育てた子どもたちに言っているように聞こえた。以前も第二中学校でバケツを使った稻が実り、穂の先(頭)を重そうにした稻を見たことを想い出した。工夫次第で、環境が違う場所でも上手に育てられるのだ。子どもたちも、そのことを身をもって体験した。

前記したように、大島には水田はないが、私が幼いころ、牛や馬を飼っていた家では、麦やエンバクというものを畑で耕作していました。私の家でも、秋に種を蒔いて、しばらくすると元気に育ちはじめますが、これをわざわざ踏みつけていきます。折角育った麦を踏んだらダメになります。かわいそうではないかと思われますが、幼い麦を踏みつける理由は大きく分けて二つあります。一つ目は、麦が強くなります。麦が踏まれることで生理活性が高まり、分げつ(枝分かれ)が増えたり茎が太くなり、その結果、収穫量が増えるだけでなく風にも強くなります。二つ目は、霜に強くなります。霜が立つと土が持ち上がりてしまい根がダメージを受けますが、踏むことで土壤が固められ霜を防ぐことができます。春になるまでこれを数回繰り返します。幼い私は、理由は分からなかつたが、ただ親のすることを見様見真似で一緒に並んで楽しく踏んだ思い出がある。「麦は踏まれて育つ」という言葉は教育にもなぞられて使われることがあります。「たくましく健全な子どもを育てるためには、時には厳しい環境も必要である」とのたとえですが、一方「踏むな、育てよ、水そそげ」という言葉もあります。島の子どもたちには、どんな厳しい環境の中であっても沢山の花を咲かせ、たわわな実りとなるよう応援していきたい。

明日をつくる

教育長職務代理 山田 三正

春。進級進学そして社会人への新しい道へ歩き出すときです。今日が明日を作る。これまで身につけた知識と体験のすべてが今の財産であり、自信を持って語れるものです。その上に新しく積み上げて一歩進んでほしいと思います。

1月11日に開発センターで大島町二十歳を祝う会が50名の参加で開催されました。参加者一人一人が保護者への感謝の言葉と現在、そしてこれからの進む道を堂々と話す姿を見せてもらい、頼もしさを感じ感動しました。

大島で育ち、今まさにそれぞれの場所で自分の道をしっかりと進み自信に満ちた姿でした。

1月27日には伊豆大島ジオパークの再認定が報告されました。ジオパークは歴史や社会国際的にも価値のある地質遺産を理解し保護し、地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生及び持続可能な社会・開発を実現することを目的としています。

活火山の大島の地質・地形の重要性を知り、持続的に利用し、自然災害、なかでも火山災害・防災減災、自然環境の影響といった重要課題への意識と理解を高めている大島。地質だけではなく、大島の生活や文化もその基、資質となっています。

再認定はこれまでの大島町民と関係者の日頃の活動と今後の方針・計画などが評価された結果です。みんなで伊豆大島ジオパークを育てていると思います。

大島は私達の暮らしの場であり、人を育ててくれています。

ジオパークを通じて、地域の自然や文化を学び、地域の歴史や伝統を理解することで、子どもたちは地域に対する愛着を深めます。地域愛や地域の文化を尊重し、そこで生きることを学び知ることで郷土愛も育ちます。

大島を愛し学んだことを活かし、未来を考え行動できる、行動する子どもを育てる。それがこの大島を、日本を地球を発展させ持続可能な世界の実現につながると言えます。グローバル化が言われています。グローバルというのは「地球上の」という意味があります。問題がその国の中だけで完結せず、全世界的、地球的規模で考えなければならないことがたくさんあります。世界のいろいろな事柄やつながりに関心を強くもち、理解しようと努めることはとても大切です。相手を理解し協働するとき、自分自身の理解と芯を確立していることが大切です。

そして今。大島を離れ、新しい場に立つとき、その土台となるのはそれまで身につけた考え方や学びです。そしてもう一つ。大島の文化と体験や経験と知恵、行動の仕方や人と人との付き合い方など、まさに唯一無二の自分です。羽ばたく先が日本もしくは世界でも。

自然と文化を科学的に学んで、見て、感じて、色々な体験ができる誇れる大島です。今の自分に新しい知識と経験を積上げて、明日の自分を創って欲しいと思います。

「巡り巡って」

委員 井島 吉春

テレビドラマを見ていたら「バタフライエフェクト」のことが出てきて、ああこれ仏教の教えにも繋がっているんだよなと思いながらドラマを楽しんだ。

バタフライエフェクトとは、アメリカの気象学者エドワード・ローレンツが唱えた説で、ブラジルで飛び蝶の小さな羽ばたきが巡り巡って影響しテキサスで竜巻を起こすか、と仮説したものである。小さな蝶が羽ばたいたことにより草食獣がそれに興味を持ち飛び跳ね、肉食動物がそれに気づき狙いを定め、その音に気づいた草食獣たちが大群として逃げ惑うことで大きな風が起り、海に向かった風が上昇気流をつくり積乱雲が生じて竜巻が起こるというもの。小さな出来事が将来大きな出来事につながることを示しているようだ

ローレンツは現代の学者だが、このことを約2500年前にお釈迦様（仏教を開いた人）が「縁起えんぎ」という法則で説いている。一般に縁起が良い、縁起が悪いなどと使う言葉だが、お釈迦様が説いた縁起は、あらゆる出来事は原因によって生じた結果であり、これを因果応報といい仏教の根幹的な教えて、自然現象の説明の他、人間の行為の道徳的基準にも用いられる。

ところで今やパソコン、スマートフォンなどの普及で文字を書く機会もめっきり減ってしまった世の中だが、昔は「書は人なり」といって手書きの文字には書き手の人柄や心が出ると言われていた。特に学校の先生の字は全て美しく見えた。師範学校（昔の教員養成学校）出身の先生も多くいて、黒板に書かれた文字などは消すことが勿体無い程ほれぼれした字だった。今はうまい

字を書くことは一部の愛好家の楽しみぐらいになってしまったが、やはりうまい字、美しい字を書くことは普遍的な価値があると思う。

背筋を伸ばし、呼吸を整え、雑念を払い一心に正しく美しい文字を書こうとする姿勢は人間としての心を浄化し、書いた本人も、その字を見た人も心が清らかになると思う。

私は相変わらず手書き中心の生活を送っているが、やはり書くことは楽しいし、気持ちが良いので1人でも多くの人に手書きの美しい文字に興味を持っていただきたいと思っている。

バタフライエフェクト、お釈迦様の縁起で巡り巡って人々の心が晴れやかになり、明るい世界になって欲しいと願っている。

「やる気がなくてもやり始める」

委員 山本 忠夫

令和7年を迎え、今年の目標を立てる…ということはせず、（これはこれで例年通りなのです）あっという間に1ヶ月以上経ってしまいました。これではいけない、と思う毎日ですが、実は昨年の後半くらいから続けていることがあります。それは、ストレッチと軽い筋トレ（リハビリと言った方が正しい）です。

60歳を超えると身体も痛いところが増えてきたことを実感していますが、お風呂に入るとじんわりとコリがほぐれ、痛みが和らぎます。若い頃はお風呂に入らなくてもシャワーだけで十分だったのですが、今はお風呂に入りたい。そして、それと同じようなことがストレッチや筋トレで少し味わえることを知りました。

筋肉を動かすと血流が良くなり、身体がじんわりとお風呂に入ったみたいに温まり気持ち良いのです。これは続けていこうと思いました。しかし、若い時に比べると疲れやすく、そうなるとやる気が全く起きず、ぐーたらな日も続いてしまいます。

そんな時・・・、こんな言葉に出会いました。

「やる気がなくてもやり始める…がやる気を出す唯一の方法である」と。

残念ながらやる気は勝手には湧いてこない。これは脳科学でも心理学でも証明されている。（作業興奮というらしい）

やる気は・・・やる気 ⇒ 行動 ではなく、行動 ⇒ やる気 の順番で発生する。

つまり、やる気は待っていても湧いてこない。やる気を出したければ、やる気が湧いてくる前にとにかく行動あるのみなのだ。と書いてありました。

といえば、子供の頃、始めるまではすごく億劫だったけど、えいっ、と飛び込んで行動してしまえば意外と楽しいと思ったことあったなあ…と思い出しました。

まあ、やってみようと思いました。とにかく無理しない。例えば、今日のストレッチはやりたい部分を10秒で終わりでいいや。今日は疲れたから腕立て伏せは1回だけでいいや。みたいな感じで。そうしたら、1回やり始めると、あれ、あと何回か出来るかな?とやる気が起きてくるのです。不思議だけどそうなのです。動くのが楽しくなってくる。

お陰様で、最近はほとんど毎日何かしらストレッチしています。そうしたら、動いていなくても痛かった腰痛がいつの間にか気にならなくなっていました。

継続は力なり、ですが、私は待っていてもやる気は起きません。だから、動き始めてしまえば、やる気は勝手に出てくるもの…と信じてみると、意外と継続できるものであると知りました。

今年1年は、継続できるかを実験したいと思っています。その結果、何かしらの身体や心に変化が見えられたら嬉しいです。

子供から気づ（築）かされること

委員 秋田 幸重

現在、全国的に人口減少や少子高齢が取りざたされています。大島町でも人口7,000人を切り、18歳以下の子供達の人数が昔と比べてかなり減っていると見受けられます。また、離島という立地柄、閉鎖的な社会環境のもと、日々勉学に励んでいることかと思います。

そんな中で都内の子供達と格差のない教育（学びの充実）が提供されることを切に願っておりますが、最近、驚かされたエピソードを紹介します。先日、島内のお土産店に立ち寄った際に、アルバイトをしている高校生を見かけました。お土産店ということで、お客様は観光客がほとんどなのですが、1人のお客様が「おすすめの観光スポットはどこですか」とその高校生に尋ねました。私はきっと答えられないだろうなと思っていましたが、その高校生は、「最近はこの地域でカフェや食べ物屋さんが増えてきているので、今から向かうと昼食をとるのに丁度良いですよ。町並みも風情があって昼食の後はそこのカフェに行くのも良いかもですね。」とその地域の動向を把握し親身に対応している姿を見て感銘を受けました。

その対応を見て気づかされたことは、最近、ICT教育やグローバル教育が大島でも行われていますが、都内の子供達との教育格差を無くすことも勿論大切ですが、その地域でしかできない学び、気づきを義務教育の過程で養うことも大切だなと思いました。きっとそれは自身の教育だけではなく、島の外に旅立っても、「地元の大島ではこんな良いところがあって・・・」と関わる人に大島が知られて行って、観光客が先々増えていくのかなとも考えます。やっぱり教育は教育という側面だけでなく、様々なことに波及していくものなのかなと思います。教育委員に着任して1年経ちますが、今後大島を中心、外から築いていく子供たちの教育環境、現場をよくするために尽力できればなと思います。



【大島町教育相談室のご案内】

大島町教育相談室は、教育相談員・指導員・社会福祉総合相談担当の5名体制で、子ども達や保護者、教職員のための相談対応、支援を行っています。

教育相談事業

不登校・いじめ・発達の遅れ・学業不振・非行など、子ども（小・中学生）のあらゆる教育相談について、本人や保護者及び学校関係者のご相談をお受けします。

適応指導教室「パレット」

さまざまな理由で学校に行きにくかったり、教室に入れなくなったり、登校できないでいる小・中学生のための居場所です。一人一人に応じた体験活動や学習活動を行い、学校復帰や進路の実現に向けて支援をしていきます。

困ったり、悩んでしまった時は、迷わず（2-4544へ）直通電話へ連絡ください

【連絡先】大島町元町字丸塚548番1 大島町生涯学習センター・郷内（2階）

電話：2-4544 メールアドレス：kyouikusoudan@citrus.ocn.ne.jp

※なお、来室される方は、教育相談員が学校訪問するなど不在の場合がありますので、事前にお電話にて確認のうえお出掛け下さい。